

KAIT

カイト

神奈川工科大学広報誌
KANAGAWA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

NO. 203

神奈川工科大学は 今年60周年を迎えました

学科TOPICS／学生の活躍
Office Information



神奈川工科大学は今年60周年を迎えました

総学生数約5,000名(博士課程を含む)を擁する工科系総合大学に成長し、3万人以上の卒業生を社会に送り出してきた本学。創立60周年を契機に様々な記念事業を企画・推進して参ります。



60周年を迎えて

学長 小宮一三

本学は創立60周年を迎えるにあたり、未来を見据えて本学の進む方向を示す「KAIT Vision 60」を策定し、未来社会を支える教育、研究、地域連携・貢献を通じて工科系大学のトップランナーになることを内外に宣言しました。この目標に向けて、2024年度より学部学科の再編や人工知能(AI)教育などに取り組むほか、地域連携の強化を目的とした新施設の建設を行っています。

社会は少子高齢化、地球環境問題などにより大きく動き、持続的発展社会に向けた科学技術も急速に進展しています。本学は60周年を未来に向けたステップとして皆さんとともに新しい時代を築いていきたいと思っています。

2024年4月 工学部と情報学部を改組・改編します

時代の変化に柔軟に対応するため、2024年4月、神奈川工科大学は3学部体制でスタートします。すべての学生が成長できる学習スタイルを構築し、モチベーション教育、教育のデジタル化、グローバル教育、産学連携教育など、教育内容の充実を目指します。

現在の学部・学科・コース

学部	学科	コース名
工学部	機械工学科	機械工学コース
		航空宇宙学コース
	電気電子情報工学科	
	応用化学科	
情報学部	情報工学科	
	情報ネットワーク・コミュニケーション学科	
	情報メディア学科	
創造工学部	自動車システム開発工学科	
	ロボット・メカトロニクス学科	
	ホームエレクトロニクス開発学科	
応用バイオ科学部	応用バイオ科学科	応用バイオコース
		生命科学コース
健康医療科学部	看護学科	
	管理栄養学科	
	臨床工学科	



2024年度入学生の学部・学科・コース

学部	学科	コース名
工学部	機械工学科 (2024年4月改編)	機械工学コース
		自動車システム工学コース
		環境・エネルギー工学コース
	電気電子情報工学科 (2024年4月改編)	電気電子情報工学コース
	情報エレクトロニクスコース	
情報学部	応用化学生物学 <新設>	応用化学コース
		応用バイオコース
	情報工学科	生命科学コース
		情報ネットワーク・コミュニケーション学科
情報学部	情報メディア学科	
	情報システム学科 <新設>	
	看護学科	
健康医療科学部	管理栄養学科	
	臨床工学科	

◎尚、在学生については、卒業するまで現在の所属(学部学科名称)のまま、教育・研究の内容も変更はありません。

◎現在設置されている学科の学びは、2024年以降学部や名称が変わってもすべて引き継がれます。

新設学科 工学部 応用化学生物学

応用化学コース、応用バイオコース、生命科学コースを設置。応用化学と生物(バイオ)の両方の基礎を理解し、食品や薬品などの製品開発につながる専門技術が学べる学科です。今までの「工学部 応用化学科」と「応用バイオ科学部 応用バイオ科学科生命科学コース・応用バイオコース」の学びを、それぞれのコースが引き継ぎます。

新設学科 情報学部 情報システム学科

創造工学部 ロボット・メカトロニクス学科の学びを引き継ぎ、医療福祉・生産現場・教育など多様なフィールドに広がる情報技術の「社会での活用方法」に注目して、人々の生活や働き方への応用を模索します。情報技術の基盤であるソフトウェアに加えて、ハードウェアも合わせて学び、プログラムでモノを動かすための知識を習得します。

■2024年度以降変更になる学部・学科・コース(新設学科に移行する学科以外)

工学部 機械工学科 航空宇宙学コース → 工学部 機械工学科 機械工学コース
創造工学部 自動車システム開発工学科 → 工学部 機械工学科 自動車システム工学コース
創造工学部 ホームエレクトロニクス開発学科 → 工学部 電気電子情報工学科 情報エレクトロニクスコース

KAIT Vision60を策定

創立60周年を迎えるにあたり、変わりゆく社会動向を踏まえた上で、およそ20年後の本学の姿を描く長期ビジョン「KAIT Vision60」を策定しました。

今後も課題を発見し柔軟な発想で解決でき、技術によって新たな価値創造を生み出せる「人」を育て、身近な課題から地球規模の課題まで「知」をもって取り組み、個人の個性と能力を十分に発揮できるコミュニティの「絆」を地域社会とともに形成しながら、本学の多様な「力」を結集して、豊かで持続可能な未来へ貢献します。そして、伝統を礎にしながら未来社会を支える新たな技術と人材を生み出し続け、「社会・地域の発展と自然環境との共生、本学に関わるすべての人々との絆」を次の世代に継承するべく、さらなる発展を遂げることを目指します。



詳細ページへ

長期目標：
伝統を礎に未来をつくる大学へ



国際シンポジウムを8月に開催

2023年8月29日(火)～31日(木)、本学にて「地球環境を支え、人々の未来を創る科学技術 / Science and Technology for Global Environment and Future Generations」をテーマにシンポジウムを開催します。本学の「建学の理念」である「創造性に富んだ技術者を育て科学技術立国に寄与する」こと、そして、将来へ向け本学のグローバル化への取り組みを一層高めるために、情報・環境エネルギー、健康・医療・福祉など様々な視点から考える3日間となります。学生の参加を積極的に促す場を設け、グローバルコミュニケーション力の向上につなげたいと考えています。



詳細ページへ

学部生給付型奨学金(入学前予約型)を開始

本学に入学する前に大学独自の給付奨学金候補者となる、入学前予約型の給付奨学金を設立しました。対象となるのは、神奈川工科大学への入学を強く希望し、2024年度入試の「総合型選抜・学校推薦型選抜」「一般選抜(一般入試・共通テスト方式)いずれかに出願する予定の方です。

*申請・給付には条件があります。詳細につきましては右のQRコードにアクセスしてご確認ください。



詳細ページへ

公式ホームページの全面リニューアルを実施

60周年の記念事業の一つとして、本学のホームページを全面リニューアルいたします(7月公開予定)。コンセプトは「この手で、ひらく」。学生の未来をひらく「教育」、知のフロンティアと新たな可能性をひらく「研究」、大学の知・人を「地域」にひらくという、本学の「教育」「研究」「地域」に関する取り組みをイメージしたサイトとなっています。また、スマートホン、PCサイトが一体化した完全レスポンスとなり、新しい時代にふさわしいデザインで、どなたにも見やすく、使いやすいサイトとなるよう制作を進めています。

新たな施設がキャンパスに加わります

KAIT TOWN

竣工予定2024年3月



鉄筋コンクリート造、地上2階、延床面積 1,225 m²
地域連携・貢献センター、eスポーツセンター、eスポーツ・市民ホール、市民・学生コミュニティ室、コレクション展示室 他

地域連携の強化を目的とした「KAIT TOWN」、機械工学の実践力充実のため「新実験実習棟」(仮称)の建設を行っています。「KAIT TOWN」では学生主体のeスポーツの活動拠点となるほか、広く地域の方々との連携活動の場となる予定です。

新実験実習棟(仮称)

竣工予定2024年1月



鉄筋コンクリート造、地上2階、延床面積 750 m²
環境・エネルギー工学実験研究室、流体実験研究室、風洞実験実習室、熱実験室、溶接実習室

学科を超えて地域とつながる

管理栄養学科 饗場研究室

栄養の知識

×

情報メディア学科 福本研究室

映像制作の技術

で完成した！食育動画



工科系総合大学である本学の強みの1つに、異なる分野の学科の連携による課題解決があります。そうした中でも、2021年に管理栄養学科 栄養教育研究室(饗場研究室)と情報メディア学科 映像メディア表現研究室(福本研究室)がタッグを組んで取り組んだ、町田市保健所の食育キャラクターの動画制作は、地域とも関わり学科も超えて、学生が制作したという珍しい取り組みといえます。その制作経緯について伺いました。



食育キャラクターはどのように作られましたか？

管理栄養学科 饗場 直美 教授

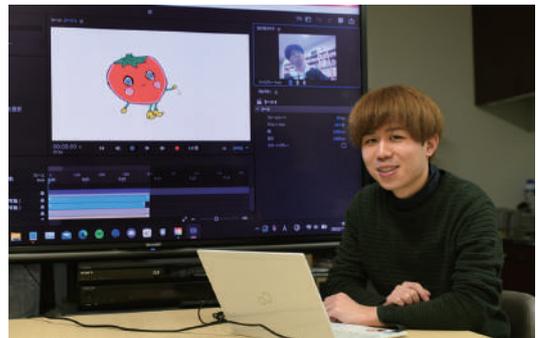
町田市の食育推進委員会の委員長をしていたときに、新しいキャラクターを作る話が持ち上がりました。描くのは町田市の特産・地場産のものを素材にした6体のキャラクターで、動画のテーマは「減塩」です。興味がありそうな学生に声をかけたところ、3人が手を挙げてくれ、各自キャラクターを描いてくれました。町田市保健所でのプレゼンをしたところ、その中で保育園・幼稚園～小学校低学年向けにぴったりの山中千明さん(2022年3月卒業)のキャラクターに決められました。そしてこのキャラクターはその後市民の投票で「まち☆ベジーズ」と名付けられました。



動画制作はどのように行われたのでしょうか？

情報メディア学科 福本 隆司 教授

動画は私の研究室の下地成弥君(2022年3月卒業)が担当しました。山中さんが描いたキャラクターをどう動かすかというのが、今回のコラボレーション大きなポイントです。山中さんにキャラクターの手や足、目などを分けて描き直してもらい、それを下地君がパソコンに取り込んで専用のソフトで体の動きを作り、動画編集ソフトで完成までもっていきました。動画は上映する商業施設のモニターのループに合わせて15秒で仕上げることになり、一部を実写にするなど工夫して完成させました。



動画を制作した下地さん。後ろに写っているのが「まち☆ベジーズ」のキャラクター。「モニターの食育キャラクターは、胴体がないため動かすまでが苦勞でしたが良い経験になりました。この映像が完成できてうれしいです。」



立川駅周辺で制作動画が放映された様子(2018年)



学科を超えた取り組みのはじまり

6年前、東京都多摩立川保健所で多摩立川保健所栄養・食生活ネットワーク会議の委員をしていたとき、食育動画を作りたいという話ができました。そこで「本学は工科大学なので学生ができますよ」と引き受け、福本先生に動画制作に加わっていただき学科を超えた取り組みがはじまりました。東京都多摩立川保健所と一緒に制作してきた「野菜をおいしく食べようPR動画」は8本になります。

*動画は東京都の「東京動画」というWebサイト(右記QRコード)でご覧いただけます。



神奈川工科大学だからできる！ICTが使える管理栄養士の養成

今は管理栄養士にもICTが必須なので、私が受け持つ「栄養教育論実習Ⅱ」では、昨年度からiPadで食育の動画制作を行い、動画作成から動画を使って対面での栄養教育ができるように指導しています。工科大学の中にある管理栄養学科だからこそできる、ICTが使える管理栄養士の養成です。



どんな研究でも必要とされるメディアリテラシー

今はどんな研究でも映像で発信することが必要なので、国語と同じように「読み書き」をする「メディアリテラシー」が重要になってきています。情報メディア学科の2年生向けに「映像メディアリテラシー」という授業を受け持っていますが、管理栄養学科での動画制作も目的は同じ「メディア教育」と言えます。

卒業生の活躍

本学の卒業生は様々な分野で活躍しています。
今号では、秋田県で栄養教諭として活躍中の卒業生をご紹介します。

栄養のプロとして 子供たちの食生活の土台を作る！ 栄養教諭の仕事

子供たちに栄養の大切さを伝えています

秋田県北部にある小坂町立小坂小・中学校(小中一貫教育校)で、栄養教諭として勤務しています。仕事内容は、学校給食の献立作成をはじめとする栄養管理や調理作業における衛生管理、校内の食育活動では中心となって活動しています。給食の時間に各クラスを回って、子供たちの様子を見守るのも食育の大切な仕事で、行事食の由来や食べ物のミニ知識を話したり、箸が進まない子供がいたら食べ物の良いところや栄養的なことを伝えたりします。また、学級活動や家庭科をはじめとする各教科等で栄養の授業をするときには、小学1年生には食べ物の名前を伝えることから始まり、中学生になると地場産の食べ物の良さなどを掘り下げて話すなど、発達段階に合わせた指導を心がけています。他にも、総体の時期に合わせて中学生にスポーツ栄養の授業を行っています。

大学1年で決めた「栄養教諭」という進路

高校時代の部活動で、スポーツ栄養について教えてくれる人がいなかったことから、自分が教える立場になろうと思い、神奈川工科大学の栄養生命科学科(現:管理栄養学科)に進学。入学後のガイダンスで栄養教諭のことを知り、「これしかない!」という気持ちで教職課程を履修しました。秋田県では、栄養教諭の採用人数は毎年若干名と狭き門ですが、あきらめずに挑戦しました。採用試験対策では、教職教育センターの先生方に大変お世話になりました。

減塩への取り組みと栄養教諭の認知度アップをめざして

今後取り組んでいきたいことが2つあります。1つ目は「減塩」です。秋田県は脳梗塞患者の死亡率が全国トップクラスで、その原因の1つに食塩の過剰摂取が挙げられています。学校給食を活用してできることとして、月に1回「減塩デー」を設けて、減塩のコツを給食便りに掲載するようにしました。また、授業でも「減塩」の大切さについて伝えていきます。

2つ目は、栄養教諭の存在や必要性をもっと多くの人たちに知ってもらうことです。それには自分から積極的に指導をすると同時に指導の効果も示していくことが必要で、自分から発信していかななくてはと考えています。栄養教諭は子どもたちの食生活の土台を作る魅力的な仕事なので、めざす人が増えてくれたらうれしいです。



加藤 佑亮 さん

秋田県 小坂町立小坂小・中学校
栄養教諭

管理栄養学科(旧:栄養生命科学科) 2018年3月卒業

全国学校給食甲子園で 「大村智特別賞」「食育授業優秀賞」を受賞

小坂町や秋田県の食材をふんだんに使った「たらふく小坂給食」という献立で、全国学校給食甲子園に挑みました。今回の受賞で、給食に対する子供たちの関心が高まり、郷土の給食に誇りを持ってくれたことがうれしいです。また、昨年の小坂町の重大ニュースTOP3の中に入り、新聞に取り上げていただいたり、講演会の講師として呼んでいただいたりと、こんなにも影響力があるんだと驚きました。



提供: 全国学校給食甲子園事務局



小坂町のシンボル、アカシアの花を散らした蒸しケーキなど、すべてのメニューに小坂町や秋田県の食材が使われています。

旧熱流体実験棟の思い出と新実験実習棟(仮称)への期待

幾徳高専時代からの建物であった熱流体実験棟が、耐震強度不足のために解体され、以前は学生用のオートバイ駐輪場であった場所に、熱実験室、流体実験室、溶接実習室を含む延床面積735.52㎡の実験実習棟が建設されます。なお、当然ながら旧熱流体実験棟には空調設備が無く、夏の日中には室温が30℃をゆうに超え、冬の明け方には室温が4℃を下回る過酷な環境でした。さらに、棟内にはトイレも無く、雨天には傘をさしてトイレに駆け込んでいました。新実験実習棟では、これらの環境が改善され、快適に実験実習が行われることになります。

ただし、旧熱流体実験棟が授業と研究に果たして来た役割は大きく、流体工学を専門とし、それに関連する授業を担当している私の場合には、特に流体実験棟の風洞設備により、多くの恩恵を受けました。例えば、航空宇宙学コースの新入生のほとんどは飛行機に作用する揚力がイメージ出来ていないことから、私が担当している同コースの最初の授業においては、学生自身が手に持った翼模型を風洞中に差し入れる実験を行っています。そして、手の角度、つまり迎え角を変えることで、自分の腕に作用する力の大きさと方向から、迎え角による揚力と抗力を実感させています。ほぼ全ての学生は、その流体力の大きさに驚くとともに、より風速を上げることで自身の身体が浮き上がるような感覚となることから、航空機に作用する揚力の大きさもイメージし易くなるようです。残念ながら、今年度は、新入生入学時点において熱流体実験棟が解体されていたことから、上記の実験を行うことは不可能でしたが、次年度以降は快適な環境下で風洞設備も活躍してくれるものと考えています。また、右図より分かる通り、新実験実習棟には窓が少ないため、これまでは真っ暗になるのを待って深夜に行っていた可視化実験を昼間に実施出来るものと考えています。

今後、新実験実習棟で実際に長時間の計測に取り組む修士生や学部4年生にとっては、これまでとは比較にならないほど恵まれた環境となるでしょう。そして、これらの環境の改善に伴って、彼らの研究成果がより良いものとなることを期待しています。

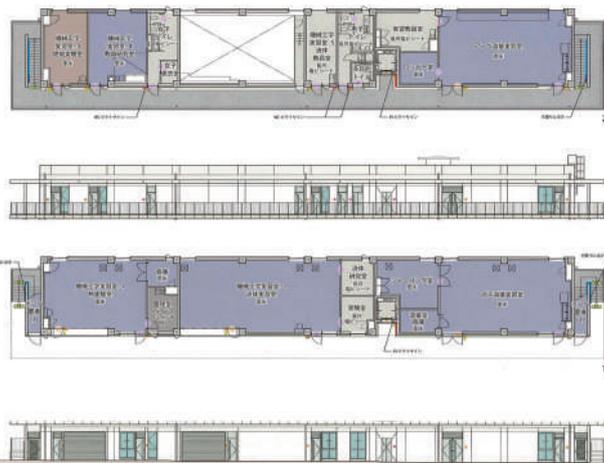


図 新実験実習棟(仮称)の外観デザイン

新入生ガイダンス

2023年度、電気電子情報工学科には、86名の学生が入学しました。新型コロナウイルスの規制も緩和され、4年前に近い形式で新入生ガイダンスが実施されました。そして、今年度はKait piaの学生12名の企画で、実りあるリクリエーションも行うことができました。4月5日午前のガイダンス後、KAITアリーナへ移動し、はじめて「あゆころちゃんがころんだ!」を行いました。これは「だるまさんがころんだ」に似たゲームです。会って数日、友達も少なく緊張していた新入生が、一気に打ち解けあい始めた瞬間でした。次に「大学生クイズ」を行いました。出題された問題に「まる」か「ばつ」で分かれ、勝ち上がっていくゲームです。最後は、ドッジボールです。ボールをあて雄叫びをあげる学生、あてられ崩れ落ちる学生、心と体を共にリフレッシュできたようです。

講義が始まりましたが、例年に比べ欠席者が少ないように思われます。リクリエーションの効果かもしれません。

(文責:教授 瑞慶覧章朝)



「あゆころちゃんがころんだ!」をみるみる迫りくる学生に怯む小室先生



新入生集合写真(Kait piaの学生と)

第3回 AIカーレースでConcours d'elegance賞を受賞

3月26日(日)に開催された第3回「AIが走らせる自動運転ラジコンカーレースKAIT Racer GP」に電気電子情報工学科光機能デバイス研究室のメンバーを中心としたチームが参加しました。

昨年9月の第2回レースにも参加していましたが、レースのあとは、それぞれが自分の研究活動に取り組み、卒業論文発表、修士論文発表が済んだ2月中旬に取り組みを再開しました。第2回レースの経験をもとに、ボディの装飾、マイコンによるヘッドライトやウィンカーの制御機構などをさらに発展させ、その結果、車体の「優雅さ」と「美しさ」が評価され、コンクール・デレガンス賞(Concours d'elegance)を受賞することができました。今回、NVIDIAのシングルボードコンピュータJetson Nanoとカメラを搭載した車体を使用して人工知能(AI)による画像認識と機器制御の基礎を学び、試行錯誤しながら挑戦した経験を次の世代にも引き継いで、学年を超えた学生の活動として盛り上げていって欲しいと思います。

(文責:講師 端山喜紀)



新入生をお迎えしました

2023年4月、新入生をお迎えしました。ようやくコロナ蔓延の影響が薄らいできて、4月1日には人数の制限があったものの、晴れての対面での入学式となりました。4月の5、6日には学科主催のオリエンテーションを行いました。オリエンテーションでは、大学の概要や授業、学生生活について説明を受けるとともに、学科の説明、時間割の作り方などの指導がありました。また、先輩たちが主催となって、新入生同士で自己紹介や交流をする機会もありました。

今は5月の終りになりますが、新入生の皆さんは、ようやく大学生活に慣れて来たところだと思います。これからの4年間は、とても貴重な時間です。いろいろなことに挑戦し、たくさん学んでください。また、友達や先生方と交流し、人間関係を築いてください。多くのことを学び、成長していってくれることを期待しています。

私たちと一緒に、充実した大学生活を送りましょう。私たちは、新入生の皆さんが、充実した大学生活を送れるように、サポートさせていただきます。何か困ったことがあれば、いつでも私たちに相談してくださいね。

改めましてご入学おめでとうございます。



1年生の特徴的な科目の紹介

応用化学科では特徴的な科目として、卒業研究体験実習があります。この科目は新入生が、まだ左も右もわからないけど、とにかく卒業研究を体験してみようという、聞いただけだとなんだか無謀にも感じる科目です。ですが、この科目は「4年間のまとめとなる卒業研究」に必要な研究に対する取り組み方の基礎を学ぶ実践的な学習活動です。卒業研究では、課題発見能力や課題解決能力、調査する力や自ら率先して動く姿勢などが求められますが、これらを早めに体験しておくことで、今後4年間、自分が身につけるべき、または身につけたいと思う能力を感じてもらうことを目標としています。現在は、2~4人のグループで各研究室に配属され、様々な研究に取り組んでいます。自分の興味や関心に合ったテーマを選び、指導教員や先輩学生のサポートのもと、研究計画を立て、実験や調査を行い、その結果を分析し、レポートや発表にまとめるという一連のプロセスを体験します。天然資源からのプラスチックの合成や分解など、実社会でも役に立つ技術の基礎となる研究に取り組んでいます。卒業研究体験実習を通して、自分で研究を行うことの難しさや面白さを感じることができると願っています。



自動車システム開発工学科

開発プロジェクト車両 走行会を開催

自動車システム開発工学科の3年次には「自動車開発プロジェクト」の授業があり、学生は希望する研究室に1年間所属し、人が乗れて「走る・曲がる・止まる」ができる移動体を設計・製作します。この製作過程を通し、コンセプト設計、詳細設計、製作、性能評価等、自動車を開発する一連の流れを体験します。開発プロジェクトの締めくくりとして、4月25日「2022年度開発プロジェクト車両」の走行会を開催しました。今回は「知能モビリティ研究室」「車両運動・制御研究室」「ソーラービークル工学研究室」「電動システム研究室」「モータスポーツ工学研究室」の順で、それぞれの研究室で工夫をこらした計7台の車両が紹介されました。

(文責:自動車システム開発工学科 教授 脇田敏裕)



テクニカルショウヨコハマへの出展

2023年2月1,2,3日にパシフィコ横浜で開催された「テクニカルショウヨコハマ」に人間機械共生研究室 (<https://www.syblab.org/>) の研究成果物を出展しました。展示ブースでは「生活・介護・医療・福祉を助けるロボットとAI」を出展テーマとして掲げ、「健康・安心・生きがい」を多面的に支援するロボットAIシステムの実装例として、生理計測ロボットLucia (ルチア)、歩行計測システムCamina (カミーナ)、食事介助ロボットMani (マーニ)、食事認識システムCibo (チーボ)、食事配膳ロボットなどの実機実演を行いました。出展ブースの様子とハンドアウト資料を図に示します。本展示では研究室と連携して製品開発を行っている企業と共同出展したことで、大学の研究開発と企業の製品開発の両面をアピールすることができ、集客においても相乗効果が得られました。

(文責:ロボット・メカトロニクス学科 准教授 三枝 亮)



プロジェクト研究実践報告会

課外科目である「プロジェクト研究実践」の報告会を4月5日のフレッシュメンズガイダンスにて行いました。以下の全6件の発表と有志の集まりであるKAIT EDTCから活動報告がありました。

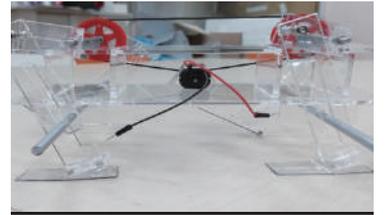
- ・スマートフォンを用いた認知症予防と支援 (2年生4名)
- ・移動巡回ロボットによる高齢者見守りとヘルスクエア (4年生2名、3年生1名)
- ・手指インターフェースと計測を用いた手指動作補助とリハビリ支援 (4年生1名、3年生3名)
- ・単一モータによる四足歩行型ロボット (2年生5名)
- ・ワイヤー駆動を用いた柔軟な蛇行メカニズム (2年生5名)
- ・ホバートレーサー [ホバーライントレースロボット] (2年生4名)
- ・KAIT EDTC活動報告

それぞれにオリジナルの工夫がなされており、新入生も興味深く聞き入っていました。

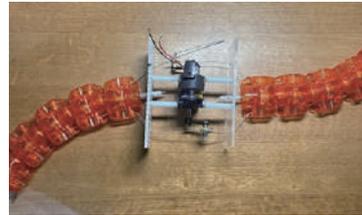
(文責:ロボット・メカトロニクス学科 准教授 吉留 忠史)



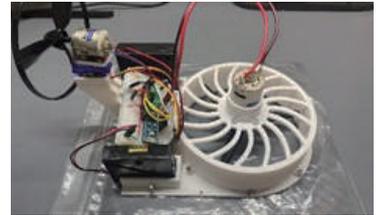
移動巡回ロボット ルチア



単一モータによる四足歩行型ロボット



ワイヤー駆動を用いた柔軟な蛇行メカニズム



ホバートレーサー

ホームエレクトロニクス開発学科

世界最大規模のバーチャルリアリティ国際イベントで受賞!

ホームエレクトロニクス開発学科の企業連携プロジェクトで開発されたMeta Table βが世界トップクラスVRコンテンツを表彰するLaval Virtual Award 2023を受賞しました。Laval Virtualはフランスのラヴァルで開催される国際展示会、カンファレンスです。今年で第25回になるこのイベントはバーチャルリアリティ、メタバースの分野では世界最大の規模で、その賞はVR界のアカデミー賞と例えられています。

Meta Table βの開発に取り組んだのは4年生の石渡将聖さん、酒井優成さん、白井耀さん。3人は3年次のプロジェクト授業でオリイ研究所と連携し、分身ロボットで働く方のコミュニケーションをサポートするテーブルを開発しました。外出に困難を抱える方が分身ロボットを通して遠隔で働く際の、接客業務のサポートを目指しています。

Meta Table βは総合部門賞であるLaval Virtual Awardの社会問題解決部門と、革新的な取り組みを評価するReVolutionの研究部門の二部門でファイナリストにノミネートされました。ラヴァルでの5日間の出展を経て、Laval Virtual AwardのXR for a Cause部門(社会問題解決部門)で受賞しました。総合部門賞には企業受賞者が並ぶなか、唯一、大学の受賞者になります。

(文責:ホームエレクトロニクス開発学科 准教授 山崎 洋一)



授賞式の様子



左から受賞した、酒井優成さん、石渡将聖さん、白井耀さん

ホームエレクトロニクス開発学科・フレッシュメンズガイダンスおよび入学前講座

新一年生を対象にしたフレッシュメンズガイダンス・入学前講座が4月5日~7日にかけて実施されました。新入生同士の交流と大学生生活に必要な基礎知識・学修の姿勢を整える内容で、学生間の友人作りに役立つと思います。今年度もPIAサポートの学生の支援を受けた授業プログラムがありました。PIAサポートに授業を依頼した三柄教授は「昨年同様、PIAサポーターの考えたレクリエーションは良い交流の場となりました。非常に元気に楽しんでる学生たちを見て安心致しました。PIAサポートの皆様、教育開発センターの先生方に改めて感謝申し上げます」と話されていました。



H科学生が中心で活動しているものづくりサークル「Life Hackers」

学科や学年の垣根を超え「こんなものが欲しい」「こんなものを作りたい」をメンバーが協力して実現していくサークル活動です。チーム制作やコンテスト活動でのメンバー募集、課題制作や自己制作の進捗報告の場としても活用出来ます。現在、サークルメンバーはH科4名、D科3名、I科1名の合計8名になります。現在進行中のプロジェクトは「ECHONET Liteを活用した教材の開発」になり、日々活動しています。読者の皆様も是非ご参加ください。

「Life Hackers」のHP
URL <https://lifehackers.sugi-lab.net/>

「ECHONET Liteを活用した教材の開発」で製作された教材用ミニチュアハウス。IoT制御が体験できるようにミニチュア家電をマイコンで制御できるように開発している。

フレッシューズガイダンスを実施

4月4日に新入生を迎え、6日、7日を含めた3日間でフレッシューズガイダンス (FG) を行いました。教員紹介や応用バイオ科学科の紹介から始まり、クラスごとの自己紹介や先輩達と学内の主要施設を回るウォークラリー、大学での学びに役立つグッズが当たるビンゴゲームなどにより親睦を深めました。また、教員・先輩とも協力し、大学で講義を受けるために必要な履修登録の仕方や、パソコンの設定などを行い、次週から始まる授業の準備を行いました。本年度の新入生の多くは高校入学時からコロナ禍にあり、制限の多い高校生活を過ごしたと思います。FG内でも利き酒サークル、iGEM (生物版「ロボコン」チーム)、KAITpia (学生間の助け合いサークル) の紹介がありましたが、学業のみならず、仲間との課外活動にも積極的に取り組み、高校時代分まで楽しめるよう充実した学生生活が送れることを願っています。



新年度オリエンテーションを実施

3月29日から31日にかけて、在学生に向けた新年度オリエンテーションを行いました。およそ2カ月ぶりの再会となりましたが、この間に雰囲気が変わった学生を見かけるなど、それぞれ充実した春休みを過ごしたように思えました。オリエンテーションでは、新年度の履修についての説明、就職活動に向けた取り組み、図書館の利用方法についての説明を行うとともに、2022年度の成績優秀者の表彰を行いました。新2年生からは、齊藤圭悟さんと佐藤潤和さん、新3年生からは趙子儀さんと田口皓耀さん、新4年生からは小田切尊さん、蜂谷駿さん、山下明孝さんが選ばれました。それぞれ、一年間の成績から算出したGPA (Grade Point Average) を基に選ばれています。このような表彰制度があることを糧に、それぞれ自身の目標に向かって学業に取り組んでもらえればと思っています。



受賞した4年生の山下明孝さん(左端)、小田切尊さん(左から2番目)、蜂谷駿さん(左から3番目)と飯田学科長(右端)



受賞した2年生の佐藤潤和さん(左)、齊藤圭悟さん(中央)と飯田学科長(右)



受賞した3年生の趙子儀さん(左)、田口皓耀さん(中央)と飯田学科長(右)

2023年度フレッシューズガイダンス&ウェルカムイベントを開催

コロナ騒ぎもだいぶ落ち着き、元通りの雰囲気を取り戻しつつあるキャンパスですが、本年度もフレッシューズガイダンスと先輩学生によるウェルカムイベントを開催しました。

今年のフレッシューズガイダンスはなんと史上初の3日間イベントとなりました。全体オリエンテーションでは学科長の講話や教員紹介などの後、クラス単位で懇談会、そしてさらに少人数の班単位で集まって履修のサポートを実施しました。情報工学科では学生10名余りに対して1名の教員がクラスアドバイザーとして手厚く面倒を見る体制をとっておりますが、さらに先輩学生が1名ずつサポートに付き、学生目線でのアドバイスなどが行えるようなピアサポートを取り入れています。

KAIT WeVと名付けられたウェルカムイベントは、教職員ではなく先輩学生が新入生を歓迎するというコンセプトで、情報工学科では数年前から開催しています。今年度は2年生・3年生が主体となって企画・準備・運営をこなしました。やはり学生目線で準備されたコンテンツですので、新入生も大いに盛り上がりおりました。来年は、後輩を迎え入れる側としての活躍を期待しています。

3日間を通して、学生間での友人作りのきっかけとなったり、学生と教員間でお互いの顔を覚える重要な機会となったり、有意義な大学生生活のスタートが切れたのではないかと思います。



新入生全員集合写真



先輩学生による履修サポートの様子



ウェルカムイベントにおけるグループワーク

着任教員挨拶



情報工学科 専門教育講師
若原 拓己

本年4月より専門教育講師として着任しました若原拓己と申します。現在では実感する科学I、情報リテラシー、C言語基礎ユニットI、情報工学基礎ユニットIなどの授業を受け持っています。これらの授業は大学での学びに必要なもの、特に情報工学を学ぶにあたっては基礎となる授業です。基礎をしっかり身に付けられなければ、学業に支障を来すことになりかねず、将来行う研究活動にも響くことでしょう。そうならないために学生がしっかりと基礎を身に付けられるように教育し、満足して卒業できるよう努力していきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

情報ネットワーク・コミュニケーション学科

FACULTY OF INFORMATION TECHNOLOGY INFORMATION NETWORK AND COMMUNICATION

ネットワークを自ら作って自ら動かす!! 実践的ICT人材の育成を目指して

分散ネットワーキング研究室(瀬林研究室)

インターネット誕生から4半世紀が経ち、ICT (Information and Communication Technology) は私たちの生活の中にすっかり溶け込み、だれでも簡単に使えて、普段はその存在自体を特に意識することもなく日々つらつらあります。しかしその反面、ICTの技術を理解し、進化させるための実践的な知識とスキルを持った技術者が不足しつつあり、その育成が急務となっています。

本研究室では、ネットワークやサーバで自ら構築し、運用管理できるICT人材の育成を念頭に、ICT環境の構築・運用管理に関する技術の研究を進めています。

ユーザ要望に応じた仮想ICT環境の自動構築・知的運用技術：クラウド技術をベースに、ユーザの要望に応じた仮想ICT環境の設計・構築から始まるライフサイクルの様々な運用作業の自動化と知的制御を実現するネットワークアーキテクチャを提案しま

す。ケーススタディとして、クラウド上への学習支援環境の構築と多様なアクセス手段を用いた適切な学修支援環境を提供する技術を実現します。

Mirror World Networking技術：実運用ネットワークで異常が発生した状況を保存し、サイバー空間だけでなく検証用の実ネットワークで再現する“Mirror World Networking”を提案します。具体的には、over 100Gbpsのネットワーク監視・分析技術と事象再現技術を実現します。

これらの研究は、丸山研と共同で実施しているInterop Tokyo等の展示会や産官学連携の共同実験での実証実験実施をマイルストーンとして進めています。これらの実証実験は、学生がプロのICT技術者と協働する実践的な学びの場になってます。

(文責: 情報ネットワーク・コミュニケーション学科 特任教授 瀬林 克啓)



情報メディア学科

FACULTY OF INFORMATION TECHNOLOGY INFORMATION MEDIA

NHK「あさイチ」で上田麻理准教授の研究が紹介されました

NHKの朝番組「あさイチ」で、上田 麻理准教授の研究が紹介されました。

紹介されたのは4月10日の回で、番組の内容は「モスキート音」と呼ばれる高音についてです。こうした音は聞こえない人には存在せず、聞こえる人にはつらい音です。放送時間中には「モスキート音」「あさイチ」というキーワードでSNSでも反響がありました。

上田准教授は「騒音はいろいろな立場の人が関係しているとても複雑な問題です。立場が偏らないように、科学的知見に基づいて専門外の方がより音や騒音への理解を深められるようなコメントを心がけました。今回の収録は2月という卒業論文・修士論文・学生の学会発表ラッシュで、テレビの取材を受けるには万全の調子ではありませんでした。次回取材を受けるなら5月以降の爽やかなシーズンだとありがたいですね(笑)」とコメントしています。



耳の模型。耳の中の「かぎゅう」と呼ばれるカタツムリの殻のような形をした器官が音の高さを聞き分けます。



上田 麻理 准教授

新任教員紹介



准教授 北本 英里子

2023年度の春に情報メディア学科に着任いたしました。専門は建築情報学です。聞き慣れない分野かもしれませんが、建築の中でも新しく確立されつつある分野で、「これは建築なのか!?!」ということもやっています。現在は、アート、XR、コンピューショナルデザインをキーワードに制作と研究を行っています。あらたな“空間”を生成することを目的に、仮想/現実に関わりなく情報技術を活用し、実現に向けた手法を模索していきたいと思っています。そのためにも、

学生さんと一緒に領域や分野、学内外を問わず新しいことに挑戦し、お互いの成長に繋げていきたいと思えます。

実は生まれも育ちも関西で、関西から離れたことがありません。関東、初上陸です。イントネーションや電車の乗り換えがままならない状況ですが、徐々に慣れていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いたします。

【専門】 建築情報学、デジタルデザイン

【担当授業】 情報メディア基礎ユニットII、情報メディア基盤ユニット、情報リテラシー



准教授 定國 伸吾

定國伸吾と申します。本年5月に情報メディア学科に着任しました。人とコンピュータの関係を実践的に考えることをテーマに、研究や教育活動を進めてまいりました。最近では、風景映像を活用したデザイン資源や地域資源の

創出、ICTを活用した造形ワークショップ、身体所有感に焦点を当てたVRコンテンツなどの研究に力を注いでいます。また、研究を通じて地域と連携する活動も実践してきました。本学においても、学生と共に、地域や社会との関わりを積極的に深めていきたいと考えています。よろしくお願いたします。

【専門】 インタラクションデザイン、情報デザイン

【担当授業科目】 プログラミングA、情報メディア基礎ユニット

看護学科 フレッシュヤーズガイダンスの開催

看護学科では、4月に第9期生となる1年生79名を迎え、4月5日、6日にフレッシュヤーズガイダンスを開催しました。初日は、上級生が大学内を案内するキャンパスツアー、2～3年代表学生からの学生生活についてのレクチャー等、新入生の充実した大学生活を応援する催しが開催されました。2日目は、午前には体育館での自己紹介やウルトラクイズ、午後は1～4学年が15名程度のグループに分かれて交流会を開催しました。最初は皆、緊張した面持ちでしたが、今までの受験勉強のストレスを吹き飛ばすように、終始笑顔があふれる時間となりました。1～4学年交流会では、新入生は不安や心配なことを質問し、上級生は自分の体験を交えながら答えていました。また、それぞれの看護観を

語り合い、看護師になるという目標を共有しながら、目標をやり遂げる決意表明の時間にもなりました。

参加した新入生からは、「先輩の生の声が聞けて具体的にイメージがつかえました」「先輩から色々教えてもらったので、これからの大学生活が楽しみになりました」との声があがっていました。

今年度から、感染対策に配慮しながら通常の大学生活が再開されています。看護大学生としての強い絆を大切にしながら、学年の垣根を越えて、共に高め助け合う学生達に期待しています。

(文責 健康医療科学部看護学科 講師 久ノ下 郁子)



新任教員紹介



<老年看護学領域>
講師 窪田 光枝

管理栄養学科

入学式とフレッシュヤーズガイダンス

4月1日(土)に4年ぶりの全学対面式での入学式がKAITアリーナで行われ、管理栄養学科は53名の新入生を迎えました。

4月5日(水)、6日(木)にはフレッシュヤーズガイダンス (FG) が行われました。新入生の自己紹介では出身地や趣味・特技、最近ハマっていることなどが紹介され、初めは緊張していた表情がすぐに笑顔にかわり、5日の後半ではもう仲間ができていました。その他、上級生を交えた懇談会、学内の見学ツアーなど、盛りだくさんで楽しい2日間を過ごすことができました。

(管理栄養学科 教授 菅野 丈夫)



+α資格取得プロジェクト発表会

2022年度+α資格取得プロジェクトの発表会を4月11日(火)に開催しました。いずれのプロジェクトでも様々な貴重な体験をさせていただき、受講生からは「必要となる知識や技術がわかった」「難しさも実感したが、楽しかった」などの感想が多数寄せられました。本プロジェクトの実施にご協力くださいました皆様により御礼申し上げます。

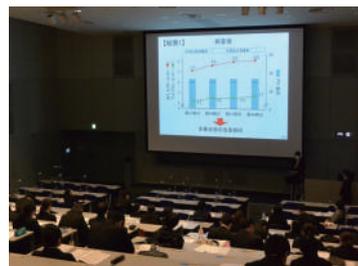
(管理栄養学科 准教授 大澤 純子)



2022年度臨床栄養臨地実習報告会

4月15日(土)メディアホールにて臨床栄養臨地実習報告会が開催されました。新型コロナウイルスの影響は懸念されましたが、殆どの班が予定日数の実習を病院で受けることができました。報告会での発表内容には、実習病院の特徴を捉え、チーム医療の現状、栄養指導、厨房作業の工夫等があり、どの班も丁寧に報告できました。質疑応答も活発な議論が成されました。実習にご協力とご指導を賜りました各実習病院の先生方に深謝致します。

(管理栄養学科 准教授 澤井 明香)



新任教員紹介



助手 古東 美菜子

本年4月より管理栄養学科に着任いたしました古東美菜子と申します。

2019年7月より、支援スタッフとして実験・実習の補助の業務を行ってまいりました。未熟者ですが、私自身も学生の皆さんと共に学び成長していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



助手 竹内 悠

本年4月より管理栄養学科に着任いたしました竹内悠と申します。母校の教育に携わることができ、嬉しく存じます。

企業での経験を活かし、学生の皆さんの学びの支えとなるよう微力ながら尽力し、私自身も成長できるよう努めて参ります。

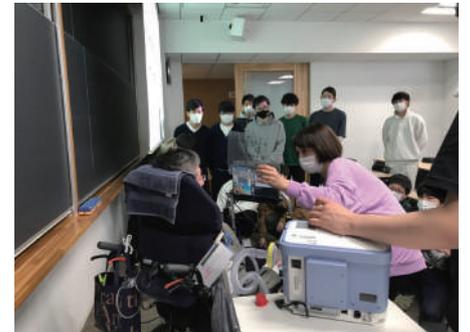
臨床工学科フレッシューズ・ガイダンスを開催

4月5日と6日、9期生となる新入生31名を迎え、臨床工学科フレッシューズ・ガイダンスが開催されました。新型コロナウイルス感染症の制限がなくなり、コロナ禍以前と同じ2日間で開催されました。1日目は、学科教職員の紹介から始まり、次に臨床工学技士の業務内容と学科における学びに関するガイダンスがあり、4年間の学習のイメージをかみしました。午後は、クラスミーティングとキャンパスツアーを行いました。クラスミーティングでは1人ずつ自己紹介を行いました。入学式からの数日間、緊張した様子でしたが、おしゃべりをする輪ができてきました。その後、学生相談室のお話を聞きました。2日目の午前にはパソコン講習を行い、午後は教務関連説明と履修相談で、履修登録する科目を固めていきました。ガイダンス終了時には、明るい和やかな雰囲気となり、有意義なガイダンスとなりました。



難病「ALS(筋萎縮性側索硬化症)」の患者さんによる講義

臨床工学技士は、命に直結した生命維持管理装置の操作、運用を担う医療職です。今回、医療機器に命を預けなければならない患者さんに、人工呼吸器や吸引器などの装置を装着されての講義をして頂きました。講師は、自力での呼吸が困難になってしまう難病「ALS」を抱え、ITエンジニアとして社会活動を続けられている方で、医療従事者を目指して入学してきた1年生への授業をお願いしました。「医療と工学の境界領域を学ぶ意義～ALSの在宅療養を事例に～」の授業は、作成されたスライドでの講義、文字盤を使つての質疑応答で進行し、その大変さを目のあたりにする90分でした。1年生のレポートでは、「病気は、家族やヘルパー、医療従事者など多くの人とともに闘うものだと強く感じた」「医療従事者になるとうる気持ががー層強くなった」などの感想がきかれました。患者さん自らの教示は、学生への強いインパクトになった貴重な授業でした。



- 2013.1 身体の異常に気づく (ALSを発症)
- 2014.9 ALSの告知を受ける **絶望**
- 2016.4 育ちう建設 **理解**
- 2017.5 誤嚥防止・気管切開手術を受ける **覚悟**
- 2018.2 講演活動を開始
- 2019.11 神奈川県「共生社会アドバイザー」受任



学生☆活躍

大学院電気電子工学専攻の学生が電気学会より優秀発表賞を受賞

2月16日に本学で開催された第12回電気学会 東京支部支所研究会において大学院電気電子工学専攻2年生(当時)の遠藤 琢磨さんが論文発表を行い優秀発表賞を受賞しました。

論文題目 「燃料電池の出力回復方法の効果の検討」



受賞した遠藤さん

情報工学科卒研生が情報処理学会第85回全国大会にて学生奨励賞を受賞

3月2～4日に電気通信大学(東京都調布市)にてハイブリッド開催された情報処理学会が主催する第85回全国大会～ダイバーシティと情報処理～において、情報学部情報工科学部4年(当時 納富研究室所属)の岡田 竜岳さんが「プログラム編集操作情報を用いたプログラミングスキル分析支援システムの開発」、同じく、情報工科学部4年(当時 田中(博)研究室所属)の栗原 泰晴さんが「短文手話動作の認識のためのセグメンテーションと識別精度の検討」というタイトルで研究発表を行い、大会学生奨励賞を受賞しました。

岡田さんの発表では、プログラム編集操作情報(コーディングシーケンス)を用いたプログラミング中の行動から動的な分析を行い、多面的なスキル評価を支援するシステムの提案とその評価結果を報告しました。提案手法はソフトウェア開発者の緻密なスキル判定への応用が期待されます。

栗原さんの発表では、手話文の動作から文を構成する各単語にセグメンテーション(分割)する方法を提案し、これまで研究室で取り組んできた手話単語動作の識別技術を用いて短文手話へ適用した結果を述べました。本格的な手話翻訳への道筋へとつながる成果です。



受賞した岡田さん(左)と栗原さん(右)

応用バイオ科学科の学生が学会発表で優秀賞を受賞

3月8、9日に沖縄県宮古島市で開催された日本海水学会若手会・第14回学生研究発表会のポスタープレゼンテーションにおいて、応用バイオ科学科4年の酒見 宗慈さん(当時)が優秀賞を受賞しました。発表題目:膜乳化法を用いた均一な球状マイクロキシアパタイト微粒子の製造

日本海水学会若手会では、学生を対象とした研究発表会を平成21年度より実施しています。本発表会は学生に研究成果を発表する機会を提供するとともに、他大学の学生および教員や企業技術者らとの交流のきっかけを提供することを目的としており、今回は3年ぶりの対面開催となりました。



受賞した酒見さん

情報メディア学科の学生が情報処理学会で学生奨励賞を受賞

3月2～4日に電気通信大学(東京都調布市)にてハイブリッド開催された情報処理学会が主催する第85回全国大会 ダイバーシティと情報処理において、情報学部情報メディア学科3年(当時 鈴木研究室所属)の溝渕 彩久良さんが「認知症予防のためのサイコロ型ビンゴゲームシステムの研究開発」というタイトルで研究発表を行い、大会学生奨励賞を受賞しました。

溝渕さんの研究は、超高齢化社会を迎える日本において重要な課題である、認知症を予防することを目的とした体験的なゲームシステムの開発です。本システムは、認知症の予防に有効と考えられている脳トレ、運動、コミュニケーションを同時に体験できるゲームシステムで、3つのサイコロを利用してビンゴすることを競い合う、とてもユニークなものです。システムの完成度だけでなく、高齢者施設などで実際にフィールドリサーチを実施していることが高く評価されました。また、本システムのアイデアは、特許取得に向けて手続きを進めています。



ホームエレクトロニクス開発学科の学生が情報処理学会で学生奨励賞を受賞

1月23～24日にホテルリゾーツ南淡路にてハイブリッド開催された情報処理学会第36回コンシューマ・デバイス&システム研究会において、創造工学部ホームエレクトロニクス開発学科4年(当時 安部研究室所属)の石垣 翔汰君が「スローモーション映像と二次元骨格情報を用いたバスケットボールのフリースローラインからの未経験者と経験者のシュートフォームの比較評価」というタイトルで研究発表を行い、学生奨励賞を受賞しました。

石垣君の研究は、フリースローラインからのバスケットボールのシュート映像により、深層学習を用いて二次元骨格情報を取得し、理想的なシュートフォームの解析を行った研究となります。今回の研究発表では、映像より正確に二次元骨格情報を取得する手法や、バスケットボール経験者と未経験者のシュートフォームを比較評価し、最適なシュートフォームについて考察しました。



受賞した石垣さん

ロボット・メカトロニクス学科の学生が情報処理学会で学生奨励賞を受賞

3月2～4日に電気通信大学にてハイブリッド開催された情報処理学会第85回全国大会において、創造工学部ロボット・メカトロニクス学科4年(当時 三枝研究室所属)の松田 輝さんと滝澤 明さんが研究発表を行い、学生奨励賞を受賞しました。



受賞した松田さん



受賞した滝澤さん

ホームエレクトロニクス開発学科の学生が情報処理学会で学生奨励賞を受賞

2023年3月2～4日に電気通信大学(東京都調布市)にてハイブリッド開催された情報処理学会第85回情報処理学会全国大会において、ホームエレクトロニクス開発学科4年(当時 安部研究室所属)の山本 成世さんが「土砂災害推定システムに対応した太陽光発電回路を搭載したメンテナンスフリー型無線センサノードの検討」というタイトルで研究発表を行い、学生奨励賞を受賞しました。

山本さんの研究は、無線センサネットワークを用いた土砂災害推定システムなどで使用する無線センサノードのバッテリーレス化を実現するための研究です。この研究では太陽光電池と将来リチウムイオン電池の代替えとして期待されている電気二重層コンデンサ(スーパーキャパシタ)を用いた太陽光発電回路を開発しました。さらに無線センサノードの消費電力を本提案手法で省電力化することでバッテリーを一切使わずに一定周期でセンシングデータを無線で送信する技術を提案しました。



受賞した山本さん

厚木市のPR動画を情報メディア学科の学生が企画制作しました

本学情報メディア学科 福本隆司研究室(映像メディア表現研究室)所属の学生たちが制作した、厚木市行政コンテンツ(厚木市のPR動画)『あなたの安全を守ります』と『わたしたちの選択』が、厚木市公式YouTubeチャンネルにて公開されました。

このPR動画は、2022年度に当時の3年生(2グループ、各4名)がそれぞれ企画制作したものです。

【厚木市行政コンテンツ2022】
(公式YouTubeチャンネル)

- (1) 動画:『あなたの安全を守ります』(3分44秒)
- (2) 動画:『わたしたちの選択』(3分30秒)



ホームエレクトロニクス開発学科の企業連携プロジェクトで開発されたMeta Table βが世界最大規模の国際イベントで受賞

ホームエレクトロニクス開発学科の企業連携プロジェクトで開発されたMeta Table βが、世界トップクラスVRコンテンツを表彰するLaval Virtual Award 2023を受賞しました。Meta Table βの開発に取り組んだのはホームエレクトロニクス開発学科4年生の石渡 将聖さん、酒井 優成さん、白井 耀さん。3人は3年次のプロジェクト授業でオリイ研究所と連携し、分身ロボットで働く方のコミュニケーションをサポートするテーブルを開発しました。(詳しくは7ページ、ホームエレクトロニクス開発学科の「学科トピックス」をご覧ください。)

2023年度「中部謙次郎賞」、「大岐良一賞」、「加賀信男賞」、「石上純男賞」、「木川統一郎賞」授与式が行われました

6月1日、本学大学院博士前期課程に在籍の大学院生を対象とする奨学金制度「中部謙次郎賞」、「大岐良一賞」、「加賀信男賞」、「石上純男賞」、「木川統一郎賞」の授与式が行われました。

授与式では小宮学長から、成績および人物ともに優秀な学生に奨学金が授与されました。

<2023年度受賞者>

- 「中部謙次郎賞」受賞者 矢田 悠人さん(機械システム工学専攻 2年)
- 「大岐良一賞」受賞者 太田 康翔さん(電気電子工学 2年)
- 「加賀信男賞」受賞者 河住 篤史さん(機械工学専攻 2年)
- 「石上純男賞」受賞者 大西 裕也さん(応用化学・バイオサイエンス専攻 2年)
- 「木川統一郎賞」受賞者 阿部 有紗さん(情報工学専攻 2年)



左から 矢田さん、太田さん、河住さん、小宮学長、大西さん、阿部さん

硬式野球部の2選手が受賞しました

令和5年度神奈川大学野球春季1部リーグ戦において、本学硬式野球部2名の選手が受賞しました。

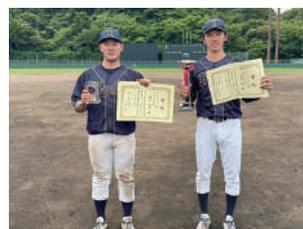
チーム成績は、4勝8負、勝ち点1(勝率0.333)5位でした。

■ベストプレイヤー賞

投手 東田 翔さん
(情報ネットワーク・コミュニケーション学科 4年)

■ベストナイン賞

捕手 福田 晟央さん
(ホームエレクトロニクス開発学科 3年)



受賞した福田さん(左)と東田さん(右)

名誉教授記授与式を挙行

永年に亘り本学の教育・研究の分野において、多大な貢献をされた下記の方々に名誉教授の称号が授与されました。

<名誉教授記 授与者>

- 高橋 正雄 名誉教授(元基礎・教養教育センター 教授)
- 三井 和博 名誉教授(元基礎・教養教育センター 教授)
- 森 勇輔 名誉教授(元創造工学部 ロボット・メカトロニクス学科 教授)
- 上平 員文 名誉教授(元情報学部 情報ネットワーク・コミュニケーション学科 教授)
- 故 武尾 英哉 名誉教授(元工学部 電気電子情報工学科 教授)



課外活動紹介

『好き』を表現し共有する！

声劇サークル

今年3月、大学から最優秀課外活動賞を受賞した声劇サークル。対面とオンラインの2つの良さを活かして意欲的に活動しています。2022年度リーダーの金網峰司さん(博士前期課程 電気電子工学専攻1年)に活動内容についてお聞きしました。

■どんな活動をしていますか？

声で演技をする「声劇」をやっています。対面での活動は、学内での台本の読み合わせをはじめ、ボードゲームやTRPG*などで、メンバー間のコミュニケーションを大切にしています。また、オンラインの活動では、Discord(ディスコード)**を使って家でも気軽に参加できる環境を作り、オンラインゲームや動画の同時視聴、配信などを行っています。自分たちで企画から進行までを行っており、誰もがやりたいことを自由にできます。今年度も『『好き』を表現する』をスローガンに、24時間配信はもちろん、声劇を披露する場を設けたり幾徳祭に参加したり、メンバーがやりたいことを実現させて、昨年度を上回るような活動をしていきたいです。

[Data:2012年創設、サークル員数:84名、指導教員・外部講師3名(2023年4月現在)]

* TRPG:テーブルトークロールプレイングゲーム

コンピュータやゲーム機を使わずに行う“対話型”のロールプレイングゲーム

** Discord:無料で使用できるコミュニケーション用アプリ。テキスト、ボイス、ビデオに対応している。



■昨年度の主な活動

- ・YouTubeでの24時間配信を開催
- ・動画編集でミュージックビデオを作り完成度を競うMVグランプリに参加
- ・声劇の動画化企画「もしせか企画」を実施
- ・幾徳祭での展示など

コロナ禍で活動が制限されている中でも仲間とともに演技など表現力を高め合えました。
金網

■活動ピックアップ 幾徳祭

直前に「文化祭直前!声劇サークル耐久配信」を行い、当日は、声劇を収録しスクリーンで上映、VRchatを用いた接客、他団体とのコラボなどさまざまな活動をしました。コロナ禍で幾徳祭を経験したメンバーがいなかったため手探り状態でしたが、他団体とも協力して盛り上げることができました。

■KAIT声劇サークル SNSアカウント

Twitter



Youtube



KAIT LINK

地域とつながる・地域にひらく

先頃策定された、20年後の本学の姿を描く長期ビジョン「KAIT Vision60」では、社会貢献の方針の一つとして「本学(教職員、学生)と地域との連携強化」があげられています。このような地域連携の活動の中心を担うのが「地域連携・貢献センター」と「地域連携災害ケア研究センター」です。このコーナーでは両センターの活動をピックアップしてご紹介します。

「障害・ジェンダー・災害対策を考える 国際セミナー～ “誰一人取り残さない”災害時対策に向けて～」

2023年3月9日、「障害・ジェンダー・災害対策を考える 国際セミナー～ “誰一人取り残さない”災害時対策に向けて～」と題した国際セミナーを、本学地域連携・貢献センターと地域連携災害ケア研究センターが主催し、研究推進機構と国際センターにご協力をいただき、開催しました。使用言語は英語でしたが、アジアを中心に16か国60人に参加していただきました。

主なプログラムは以下の通りでした。

■基調報告 「JHAT(日本災害時透析医療協働支援チーム、神奈川工科大学に本部)の活動

～ 災害時、患者・被災者を守る医療機関を支援する医療従事者チームの活動 ～

山家 敏彦 教授(臨床工学科 / 地域連携災害ケア研究センター長 / JHAT代表)

■地域報告

「ベトナムにおける自然災害時の対策と障害者参画」

ドゥ・シー・ヒューイエン (ベトナム・ハノイ障害者協会・会長)

「熊本地震における障害者の被災経験から」

平野 みどり (障害者インターナショナル日本会議・議長)

■意見交換(キーワード: 災害・障害・ジェンダー・インクルージョン)

コメンテーター: アデラ・コーノ (フィリピン・セブ市アクセシブル環境推進アドボケーター)

上野 悦子 (日本障害者リハビリテーション協会 元参与)

進行: 小川 喜道 (地域連携・貢献センター長)

SDGsの唱える「誰一人取り残さない」を念頭に防災を検討しました。近年拡大の一途をたどっている自然災害に対し、疾病や障害のある方々をどのように守り、避難し、日常に復帰していくかを、経験を踏まえた報告と、今後のあり方を国連障害者権利条約や国連防災会議仙台枠組みを踏まえながら議論を展開し、有意義なセミナーとなりました。

今回のセミナーには、UNICEFなど国連機関や日本からはJICAも参加しており、今後の連携を深め、当大学60周年国際シンポジウムの時期に、これら国際機関の協力を得てさらに拡大したイベントを計画・実施していきます。



地域に根拠した災害リスクマネジメント・サイクルに関する話し合い

公開講座「日本特撮黄金時代 平成ウルトラシリーズに関わった監督2人が語る!!」

「日本特撮黄金時代 平成ウルトラシリーズに関わった監督2人が語る」公開講座(有料)が、2月18日(土)に開催されました。

ウルトラマンガイア、ウルトラマンマックス、ULTRASEVEN X、大決戦超ウルトラ8兄弟を手掛けた 監督・特技監督八木 毅先生をゲストに迎え、本学情報メディア学科 梶 研吾教授とのトークショーから始まりました。円谷プロダクション在籍当時のエピソード、怪獣のボディスーツに纏わる秘話、撮影への思いなどが披露され、また、梶教授が監督のショートムービーを視聴しました。後半は、隣の映像スタジオとオンラインで結び、グリーバックを利用した特撮実演を参加者の方々に体験いただき、最後は、サイン会で終了となりました。



八木監督(左)と梶教授(右)

Office Information

オフィスインフォメーション

経営管理本部

総務課

理事・評議員の就退任(重任含む)

理事退任:1名(2023年3月31日付)

齋藤 貴

評議員退任:3名

(2023年1月9日付)

塩川 茂樹

兵頭 和人

(2023年3月31日付)

前泊 哲明

理事就任:1名

[任期:2023年4月1日~2025年3月31日/前任者
残任期間]

井上 哲理

理事重任:1名

[任期:2023年5月1日~2027年4月30日]

尾崎 亮典

評議員就任:3名

[任期:2023年1月10日~2026年1月9日 3年間]

西口 磯春 (選任区分:法人職員)

山門 誠 (選任区分:法人職員)

[任期:2023年4月1日~2026年3月31日 3年間]

梶浦 潤一 (選任区分:法人職員)

評議員重任:8名

[任期:2023年1月10日~2026年1月9日 3年間]

黒古 敦 (選任区分:法人職員)

畑 雅博 (選任区分:卒業生)

椎名 良一 (選任区分:卒業生)

内山 洋司 (選任区分:卒業生)

[任期:2023年3月1日~2026年2月28日 3年間]

谷村 浩二 (選任区分:学識経験者)

中部 由郎 (選任区分:学識経験者)

[任期:2023年4月1日~2026年3月31日 3年間]

高山 稔 (選任区分:学識経験者)

中谷 修己 (選任区分:学識経験者)

管財課

夏へ向けてECO活動

毎年恒例の「学生サービス棟」吹抜けガラス面への遮光カーテン設置を、「ECO推進チームみどり」の学生の皆さんに実施していただきました。

これにより強い西日から日差しを遮り、館内の省エネと快適性を両立できます。10月には撤収作業を行う予定です。



学生支援本部

教務課

今後の主な予定

<前期授業終了日> 7月31日(月)

<前期授業補講日> 8月1日(火)~3日(水)

<前期到達度試験日> 8月4日(金)・5日(土)・7日(月)

前期到達度試験の追試験期間は、9月1日(金)・2日(土)・4日(月)を予定しています。

<夏期休業期間> 8月8日(火)~9月14日(水)

※夏期休業期間中に集中講義等を実施する科目もあります。

<後期ガイダンス> 9月15日(金)

※ガイダンスの内容については、決定次第KAIT Walkerにて案内いたします。

<後期科目履修変更・キャンセル期間>

9月15日(金)~10月2日(月)

<後期授業開始日> 9月19日(火)

<前期学業成績の公開> 8月23日(水)

※保護者ポータルサイトにて閲覧可能です。ご利用については、5月にお送りしております

「保護者ポータルサイトのご案内資料他」をご覧ください。IDとパスワードを紛失された場合は、教務課(kyoumu@kait.jp)までご連絡ください。

※学籍異動(後期休学・退学)に関する手続きは、9月29日(金)までに完了する必要があります。お問い合わせは、教務課(kyoumu@kait.jp)までご連絡ください。

教職教育センター

令和6年度採用公立学校教員採用試験(令和5年度実施)及びそれ以降の受験に向けて

○6月19日~6月30日:直前対策講座

7月の1次試験合格に向けて、教職教養を中心とした講義を実施し、知識の整理をして、本番に備えます。

○7月中:各都道府県で採用試験の実施→1次合格発表(神奈川県は7月28日)

○7月29日・30日(2日間):2次試験対策①

○8月2日:2次試験対策(在校生中心)

○8月5日・6日(2日間):2次試験対策②

1次試験合格者に対して、2次試験の受験に向けて、模擬授業や面接試験等人物試験の対策を重点的に実施します。

○7月3日:教員採用試験対策スターティングガイダンス(全学年対象)

令和6年度以後の受験に向けた対策をスタートします。

○9月1日~9月12日(8日間):夏期集中講座の実施(講師:東京アカデミーのスタッフ)

大手予備校の講師から受験に必要な基礎を徹底的に学び、本格的な受験対策を開始します。

○9月12日午後:神奈川県の本年度実施問題による模試
神奈川県が本年度実施した問題に挑戦し、現段階における各自の実力測定と今後の目標を定めるための参考資料にします。

○令和6年度受験予定者(現3年生)個別面談

令和6年度に受験を予定している学生に対し、面談を実施し、希望内容の確認と、今後の取り組みについて指導します。

学生課

「父母説明会・個別相談会」開催について

コロナ禍により実施を見合わせておりました本学での「父母説明会・個別相談会」につきましては、本年9月に実施予定であります。実施内容が決まり次第、詳細を大学ホームページ等にて掲載、ご案内いたします。ご確認ください。

お問合せ先:<学生課>

gakusei@kait.jp / 046-241-9394

キャリア就職課

6月以降の就職活動支援

【2024年卒(学部4年生、院2年生)対象】

※看護学科、臨床工学科を除く

・6月開催:合同企業説明会(対面形式)

日程:6月13日(火)~16日(金)

場所:図書館4階 閲覧室

・個別企業説明会(オンライン形式)

日程:6月19日(月)~30(金)

詳細は、本学HP「KAIT Career」参照

・就活フォローアップ講座(対面形式)

日程:7月1日(土)1限~5限

【2025年卒(学部3年生、院1年生)対象】

・就活基礎動画をオンデマンド配信中。

大学HP「KAIT Career」からアクセスできます。また、前期就活セミナー未視聴者向けにもオンデマンドで配信しています。未視聴者は必ず視聴をしてください。

・インターンシップ参加促進期間

夏休み期間に集中してインターンシップに参加することで単位修得ができます。就職活動の準備として非常に有効です。お問い合わせはキャリア就職課内インターンシップ推進室窓口、またはメール(is@kait.jp)まで。

・就職力アップ講座(対面形式)

日程:6月3日(土)1限~5限

場所:K1号館 メディアホール

【その他の就職支援イベント】

・地方就職県別セミナー(オンライン形式)

日程:6月8日(木)17:00~

・女性活躍推進!今後の働き方のために

知っておきたい女性特有の健康課題セミナー(対面形式)

日程:6月9日(金)5限

場所:K3号館 3506教室

・看護学科対象合同病院説明会(対面形式)

日程:6月17日(土)

場所:K3号館

・ふらっと相談会(ハローワーク厚木共同開催)

(対面形式)

日程:6月12日(月)、29日(木)

・公務員ガイダンス(対面形式)

日程:7月4日(火)・5日(水)5限

場所:K2号館 1307教室

第1回 Research Dayを開催しました

3月31日(金)、本学キャンパスにて第1回Research Dayを開催しました。
本学には、社会での実用化を目指した最先端研究が数多くあります。その中から10の研究を「オープンラボ」として、また、先進技術研究所ではAI研究5テーマを紹介しました。

Research Dayの目的は、研究成果の学内外への発信です。学生の研究意欲の向上や大学院進学意欲の醸成、教員の学内研究連携の促進、高校教員・高校生へ「成長できる大学」としての紹介、そして、何より地域・企業の皆様との連携のきっかけ作りです。

企業や行政、大学・高校関係者の方約100名にご来場いただき、本学の学生、教職員も約200名参加しました。ラボの見学では自由見学に加え、分野別に3つラボを見学できるガイドツアーを実施しました。

研究者の説明を聞きながら目の前で実験・実演を見たり、実験施設やバーチャルリアリティを体験したりという中で、研究を身近に感じて驚くと共に笑顔になる方がたくさんいらっしゃいました。新たな研究にふれる楽しさを実感していただけたのではないのでしょうか。

今後も本学の様々な研究を多くの方に紹介していきます。

ご来場いただいた皆様、そして、開催にあたりご協力いただいた学内外の方々へ深く感謝いたします。

<オープンラボ>

- ・仮想空間での自動運転安全性評価プログラムDIVPの研究
- ・AIとIoTを応用するスマートハウスを体験しよう
- ・エッジとクラウドの連携による8K超高精細映像処理システムの実現
- ・「歩行者と協調する知能モビリティ」と「自動運転ロボカー」の実演
- ・ロボットによるKAIT広場内の3次元点群の作成
- ・健康寿命を延伸する共生型ロボットAIの研究開発
- ・浮遊ウイルスを電気的に捕集して空気をきれいにする
- ・地球温暖化を抑制するためのバイオマス資源からのプラスチック原料の生産
- ・バーチャルリアリティを利用したタンパク質の見える化と直感的創薬デザイン
- ・リンパ管の可塑性を制御する生理活性物質の疾患治療への応用

*オープンラボの内容はYouTubeでもご覧いただけます。

主催：神奈川工科大学 研究推進機構



当日の様子

「ITを活用した教育研究シンポジウム2022」が開催されました

3月10日に「ITを活用した教育研究シンポジウム2022」が開催されました。

17回目を迎えた今年は初のハイブックス開催となり、本学K3号館5階の会場でおこなわれた対面式の講演がリアルタイム配信され、学内外より110名を超える参加者がありました。

開会挨拶では小宮一三学長から「先進IT大学を目指して」として、IT分野の近年の動向と本学におけるIT教育研究推進の取り組みの説明がありました。

続いて、京都精華大学の鹿野利春氏より、「大学へつながる高等学校「情報」と1人1台情報端末の活用」と題した基調講演がありました。教科調査官として高校の教科である「情報」「情報II」の学習指導要領作成に従事されたご経験に基づくお話と中学や高校でのICT活用事例などが紹介されました。

一般講演では、32件の発表が7つのセッションに分かれておこなわれました(うち1セッションはYouTube限定公開による動画配信)。本学で取り組んでいるオンライン授業やAI教育、システム開発をはじめ、ITを活用した様々な教育に関する報告があり、活発な議論がおこなわれました。

最後に、本シンポジウムにご参加くださった方々をはじめ、各方面でご協力くださった方々に厚くお礼申し上げます。

(文責：情報教育研究センター 助教 藤井みゆき)



開会のあいさつをする小宮学長



基調講演を行う鹿野利春氏



当日の様子

創立60周年ロゴマーク



創立60周年を機に策定した記念ロゴマークには「大学をとりまく地域社会や地球環境とともに進化・成長する」という、「未来」に向けた神奈川工科大学の想いと決意が込められています。

また、本学の設立者である中部謙吉とゆかりのある大洋漁業(現マルハニチロ)株式会社、大洋ホールズ(横浜DeNAベイスターズ)からクジラを「はじまり」のモチーフとして取り入れました。